

子どもたちの未来のために

子どもたちが育っていく教育とはいつの時代も同じものではありません。
江戸時代は農業を培っていく為の教育、コンピューターがない時代は計算をしっかり出来る教育が行われてきました。近未来を希望の社会にする力をどう育てるか。
私たちに出来ることを考えて、子どもたちの為に取り組んでいきたいと思えます。

今までは答えを覚える力を求められてきましたが、これからは答えを作り出せる力が必要となってきます。昔、普通にあった経験や体験がメディア改革の中で貧困になってきている為、意識的に自分の考えを相手へ伝える力、皆で議論し合う力を養っていかねばなりません。

○メディア改革…人間がすることをほとんど機械がおこなうように。
料理、裁縫、工作、栽培、運転、デザイン、自動翻訳、手術など

○人間がしなくなり、使わなくなるもの…身体(移動その他の基礎運動、手わざ文化
自然と関わることの減少による感性)

自分の頭で考える事

人と直接関わる事(ネットで全て済ます)

この三つは生きる喜びを感じるために必要なものです。自分で興味を持ち、挑戦し、苦難の中、達成できた喜びを感じ、又、次の目標を見つけ、果敢に取り組んでいく。
この三つをしなくなった時、楽になることも多いでしょうが、運動能力や体力、考える力も衰えてしまいます。そして、人と関わることも苦手に…

《これからの教育は》

★目標に向かって頑張る力 ★人とうまく関わる力 ★感情のコントロール力

が養える教育が必要となります。

この三つの能力を育てるには…興味関心のあることに没頭する体験
レベルアップを求めて持続していく活動
やっている事を反省して意味を考える体験を沢山する
その過程でコミュニケーション体験をはさんでいく
失敗を沢山体験し克服していくことをめざす

★数がわかる。字が書ける。などIQで測れる力ではなく、自分の考えや気持ちを自分で上手にコントロールして、相手へ伝えられる力が主体となってきます



子どもたちが必要な力をつけていくために…
ひなた保育園ではピースフルスクールプログラムを導入しています。

ピースフルスクールが目指している世界

ピースフルスクールは、子どもたちの自立と共生の力を伸ばすことで、誰もが安心できる安全な環境を多様な人と共につくることを目指しています。



ピースフルスクールが考える5つの自立と共生の力

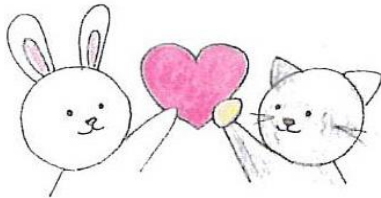
- ①対話を通して意思決定する
- ②対話を自分たちで解決する
- ③社会の一員としての責任感を持つ
- ④他者を思いやり、多様性を尊重する
- ⑤社会の仕組みの中で自分の役割を知る

子どもたちは先生と一緒に、5つの自立と共生の力を身につけるために、レッスンで共通認識を持ち、日常での実践を繰り返します。

安心安全な環境

周囲の人に対して巢の自分を見せることを自分自身が受け入れられる状態

素の自分を見せても、周囲の人に受け入れてもらえる安心感



保育園では、2歳児クラスから始めています。まず、先生と一緒に円になり、その時の自分の気持ちなどを、一人ひとりが皆に伝えていきます。そのあと、2体のパペットを使い、その日のカリキュラムになっている内容をパペットが演じ、その演じたことに対して、どう感じたかを子どもたちが順番に発言していきます。皆で言い合うのではなく、ボールがあり、そのボールを持っている子が発言できます。相手の話を聞くことも大切にしていきます。

数日後、振り返りをします。自分たちの生活の中で、同じようなことがあったか、その時、どうしたか、感じたか、変化はあったか、など…間違いはありません。どの意見も受け止めていきます。

2歳児さんは、お返事をするだけでも十分です。幼児さんは少しずつ、自分の考えを伝えていきます。いろんな考えがあることを知り、自分と違う考えと対面し、受け入れたり、分かってもらえるよう、自分の考えをどう伝えるかを考える力を養っていきます。

すぐ、怒り出すのではなく、自分の怒りをコントロールする力も身に付きます。繰り返し、子供たちと楽しみながら取り組んでいきます。

子どもたちが必要な力をつけていくために…

ひなた保育園ではピースフルスクールプログラムを導入しています。